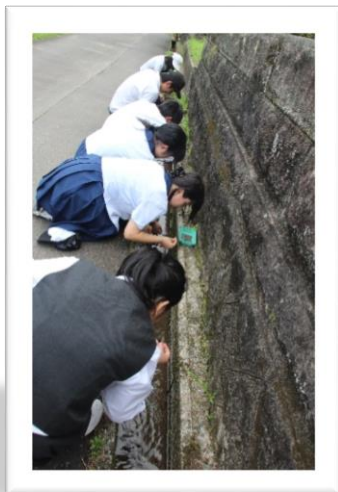


ホタルのエサを求めて・・・

6月26日、ホタルのエサとなるカワニナを獲りに行きました。カワニナは平田井手近くの小さな用水路で獲ります。ホタルはカワニナを主食としますが、食料に困ったときは、シジミなど他の貝類も食べるそうです。全国ホタル研究会会長のお話によるとミミズも食べるのか！（ただし主食ではなく、“おやつ”程度にということです。）



カワニナは用水路に溜まった泥の中に身を潜めているので、手探りで見つけます。今回は50個ほど見つけることが出来ました。ある生徒は水路にいたカエルと目が合い、うろたえていました。別の生徒はカエルを見つけて喜んでいました。自然の生き物と触れ合えるのも、科学部と耶馬溪学の特徴です。

ふ化の撮影に成功！

7月7日、ホタルの卵がふ化をしました。ふ化した直後の幼虫は1.5mmほどです。小さい幼虫ですが、ふ化して間もなく水中を歩き回りエサを探します。様子を見たい人は化学室まで！



まだ卵の中



殻を破り



殻から抜け出し



ふ化しました！

蛍？ ほたる？ ホタル？ どれが正しい書き方？

観光協会などのHPでは、「蛍観賞会」「ほたる観賞会」と表記していることが多々あります。耶馬溪校科学部は「ホタル観賞会」と書いています。“蛍”、“ほたる”、“ホタル”、どれも間違いではありませんが、科学の世界では生物名はカタカナ表記とされています。

それはなぜでしょうか？ まず、下の文章を読んでみましょう。

1. 水族館に行き、はじめに獵虎と臘肭臍を見て、そのあと葦鹿を見ました。
2. 水族館に行き、はじめにらっことおっとせいを見て、そのあとあしかを見ました。
3. 水族館に行き、はじめにラッコとオットセイを見て、そのあとアシカを見ました。

どの文章が読みやすかったですか？ 生物を漢字表記にすると、非常に読みにくいことがあります。ひらがな表記にすると、文章の中に単語が埋もれてしまいます。カタカナ表記にすると漢字やひらがなのような“分かりにくさ”が解消されます。よって、生物の多数出てくる科学のテキストや論文では、生物名をカタカナで表記するようになっています。